

英国EU離脱延期問題とEU統合の行方

早稲田大学政経学部教授 福田 耕治

- *英国とEUの関係史を振り返る
- *ブレグジットに見る英国分断の現状
- *メイ政権による離脱交渉の経緯
- *SNSによる選挙干渉問題を考える
- *新離脱協定案の焦点は北アイルランド問題
- *新協定案が下院で可決されるまでの動き
- *直近の世論調査では合意なき離脱への反対多数
- *12月12日の総選挙実施でどうなるか
- *EUの将来に関する5つのシナリオ
- *加盟国のEU離脱が難しい背景



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日はたいへんな雨で足元が悪いなか、ご参加いただきありがとうございます。ご承知のように、すったもんだを続けてまいりましたブレグジットも一定の方向性が出てきたということでございますが、なかなかこの問題はわかりづらいつら多いところが多い。何度か今までもこういったお話をしてきましたけれども、今回の結末がどういうことになっているのか、今後はまだ問題を残していますのでその辺も含めて、あるいはEU全体の統合の問題がかなり不安定化している中でこれからどうするか。こういったお話しは、おいでいただきました早稲田大学の福田先生のご専門でございますので、その辺のところを今日はじっくりお聞きいただきたいと思えます。

それでは福田先生、よろしくお願ひいたします。（拍手）

英国とEUの関係史を振り返る

福田 ただいまご紹介賜りました早稲田大学の福田と申します。よろしくお願ひいたします。2年ほど前にここにお招きいただいたときにブレグジットのお話を少しさせていただきました。それから2年半経ち、イギリスのEU離脱問題がハードブレグジットなのかソフトブレグジットなのか、あるいはノーブレグジットになるのか、いろんな憶測が飛んでどうなるのか、メディアの解説あるいは新聞を見ていてもわかりづらいところもあるかと思えます。今日はそういった事柄についてお話しさせていただきます。